

(7 -) アルミ圧延

14 / 13 15 / 14 伸び率 10%以上 ? 伸び率 0 ~ 10%
: 天気図マーク; 伸び率 0 ~ 10% 伸び率 10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要

平成14年度の板類の出荷は、海外生産が増加しているエアコン等の民生用電気機器向けや缶材が減少したものの、電解コンデンサー用箔地が13年のIT不況から、急速に回復して2桁台の伸び率を示した他、電気通信装置、自動車用及び輸出が好調だったことにより前年度比+6.6%増と回復した。一方、平成14年度の押出類の出荷は、自動車、一般機械が好調であったが、主力の建築材が公共投資の抑制等により減少傾向が続き、前年度比+1.9%増と小幅の回復であった。これにより、板類・押出類合計では、同+4.5%増となった。

今後の見通しとして、缶材、自動車用の出荷が堅調に推移する一方、電気機械関係製品の海外シフトの加速や、輸出における東南アジア及び中国経済の先行き不透明感、建築材における公共投資の抑制等による減少を加味すると、全体としては微増と予想される。

(2) 生産・設備稼働

14年度は13年のIT不況からの回復で軒並み回復してきており、箔については、前年同月比2桁回復している。

14年度の生産量は、板類が+5.6%、押出類が+2.0%、箔が+13.9%（いずれも前年度比）となった。

(3) 企業収益

アルミ圧延主要企業の経営動向（大手5社アルミ部門ベース）（単位：億円、%）

	平成13年度	平成14年度
売上高	15,801	15,348
営業利益	373	658

14年度決算では、建築材やエアコン材等の需要が減少したこと及び販売価格が減少したことにより、全体として売上高は、前年度比2.9%となった。一方、人件費といったコスト削減等により、営業利益は前年度比+176.4%となった。

2. 設備投資動向

アルミ圧延業の設備投資動向（単位：百万円、％）

	13-14共通回答企業		14-15共通回答企業		14/13	15/14
	13年度	14年度	14年度	15年度		
アルミ圧延	16,901	10,914	10,914	13,159	64.6	120.6

(1) これまでの設備投資の推移

13年度においては、更新、維持・補修を中心に減価償却の範囲内での投資が行われたが、IT関連の需要の落ち込みを背景に、一部設備投資の先送りの動きも見られた。さらに14年度は景気先行きの不透明感や設備過剰分野があることを背景に、設備投資の延期・圧縮が実施され、投資額が落ち込んだ。

(2) 平成15年度の設備投資計画

今後の景気先行き不透明感を背景に、更なるコスト削減（省人化）、生産の効率化を目的とした投資や品質改善に力点を置く傾向にあるが、自動車向け板材製造装置の増強及び、設備の更新、維持・補修に若干の投資額増加が見込まれる。

3. 長期資金調達・運用動向

14年度の設備投資は抑制傾向であり、内部資金調達で充当され、さらに資金の一部は社債への返済が行われた。15年度も同様の傾向であるが、加えて民間の金融機関への返済が進む見込みである。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

